

### 第33回 あらかわ俳壇

投句数	1160句(一般の部 966句／小中学生の部 194句)
投句者数	351人(一般の部177人／小中学生の部174人)
兼題	風光る、更衣、紫陽花、当季雑詠
選者	佐々木忠利 氏(荒川区俳句連盟会長)
期間	令和6年4月1日から6月30日

一般の部	特選	放下して残世にあふぐ月朧	安田蝸牛さん
	選評	一切の執着を捨て、残り少ない生涯を過ごそうと考えている気持ちで朧に霞んだ春の月を上げば、薄絹に隔てられた様な柔らかさが感じられ、見えない先が明るく、夢と希望が持てる気がする。しみじみとした印象深い味わいのある句である。	
	入選	父逝けば浄土も卯の花腐しかな	大越源一さん
		AIの声のニュースや水中花	竹野美恵子さん
		時鳥メガソーラーの続く村	田中礼子さん
		梅雨の来て長逗留の過客かな	三田忠彦さん
		苦屋へと延ぶ道の辺の豆の花	安田蝸牛さん
	佳作	草笛の風に音符のありにけり	山田知明さん
		カンタービレ草笛響く瀬音かな	森のみどりさん
		アポロンの求愛拒む沈丁花	野中泰風さん
		八十路過ぎにきびがふたつ山笑う	近藤悦子さん
		墨堤に草笛競ふ君のあて	木下君穂さん
		然と聴く声に覚への時鳥	宥光さん
		草笛や老の未来の前向きに	尾久西さん
		聞き分けの易しと生徒ほととぎす	高仲絹さん
		沈丁の香りに暮れる札所道	木村隆夫さん
		過去忘れ今を咲ききる沈丁花	加藤多作さん

小中学生の部	特選	ふとみれば思い出映るしゃぼん玉	第四峡田小学校6年・横溝凧さん
	選評	野口雨情のシャボン玉の童謡がふと脳裏を横切る。しゃぼん玉と子どもが遊んでいる情景を旨く掬い上げた見事な句。何げなく見ればシャボン玉が飛んでいる僅かな時間帯でも思い出が重なるように映りこまれている。	
	入選	クラスがえドキドキワクワク春の空	第四峡田小学校6年・玉山りんさん
		通る道草木があおあおしげってる	第三峡田小学校3年・知名藍弓さん
		うぐいすの鳴きごえきこうと耳すます	第四峡田小学校5年・藤田義七朗さん
		甲子園さいごの夏でやかどうか	瑞光小学校6年・小笠原正瑠さん
		時鳥命の声を大空へ	瑞光小学校6年・山口武流さん
	佳作	桜の下心境ゆるがすクラス替え	第四峡田小学校6年・浅村龍之介さん
		草笛を友と吹き合う帰り道	第六瑞光小学校5年・塩原美波さん
		雪がある一度売りたいこの白さ	瑞光小学校5年・木村しょうまさん
		わたの上その上歩き春探す	第四峡田小学校5年・井艸多聞さん
		うめの花ひとつひとつが星みたい	大田区立雪谷小学校2年・岩田莉子さん
		桜散り静まりかえる登下校	瑞光小学校5年・小倉暁さん
		桜の木希望の光さきほこる	第四峡田小学校6年・小池奏さん
		さぼってるてるてる坊主雨が降る	第四峡田小学校5年・入方優悟さん
		草笛が風と共に歌合戦	第三瑞光小学校5年・水野結珠さん
		天の川星でつないで糸電話	瑞光小学校6年・かりんさん

### 第34回 あらかわ俳壇

投句数	568句(一般の部507句/小中学生の部61句)
投句者数	200人(一般の部151人/小中学生49人)
兼題	金魚、鳳仙花、水澄む、当季雑詠
選者	対馬康子氏(現代俳句協会副会長)
期間	令和6年7月1日から9月30日

一般の部	特選	一枚の水の流れの金魚かな	宮永武彦さん
	選評	金魚は池や水槽で飼われるので流れる水にいるのが不思議。また金魚そのものが「一枚の水の流れ」となっているとも受け取れます。詩的な遊び心がある表現によって、自在な金魚の姿が見えます。	
	入選	金魚鉢あったら入りたいあらかわ遊園	岩淵阿実さん
		老いし母また新しき金魚かな	大越源一さん
		印象派めく街路樹や炎天	櫻井祥香さん
		恋しさを満月までの距離といふ	後藤章さん
		水澄むや動物園の慰霊祭	やまさきゆみさん
	佳作	鳳仙花隣の彼はもう他人	小沼陽菜乃さん
		水澄むや心つくろふこと忘れ	北藤詩旦さん
		きりぎりす悄然と鳴く古戦場	安田蝸牛さん
		交差点斜めに渡る秋思かな	下村修さん
		イマジンの流るる部屋や金魚鉢	丸山優龍さん
		鳳仙花二階住居の雑居ビル	沼野大統領さん
		ふるさとと呼びたき町よ水澄めり	董久さん
		順繰りに切れる電球鳳仙花	弥栄武庫さん
		にはたづみくすぐるほうせん花はぜる	南方日午さん
		戦争止めぬ人如何に見る金魚	野中泰風さん

小中学生の部	特選	金魚のようにうごくバスケットボール	金魚さん
	選評	コートを手を右に左に動くバスケットボールの様子が金魚のようだと、生き生きとした発想です。この句はバスケットボールが主体なので、きっと大好きなのですね。すいすいと縫うように走ります。	
	入選	山のおくかすかに見えるは滝しぶき	第四峡田小学校3年・吉田茉由さん
		尾久の原じりじりする日蟬の声	赤土小学校小学校2年・森野力仁さん
		金魚の尾ひらりバレエのチュチュくるり	倉敷市立万寿東小学校6年・野のはなさん
		空間はゆがむオランダシシガシラ	一燈園小学校4年・太田慈さん
		満月の色美しき空の旅	千駄木小学校3年・森田美友さん
	佳作	しょくぶつもみんなとおなじ生きてるよ	第三日暮里小学校2年・岡村英青さん
		いくたもの涙したたる夏の雨	第六日暮里小学校6年・山田芽生さん
		夏の音は波の音ひびく夏だなあ	聖心女子学院(小)6年・菊池望愛奈さん
		金魚だってあついのだろう空あつし	根岸小学校2年・水島大賀さん
		花火見る特別な人とあの夜に	諏訪台中学校1年・ミナソノさん
		とんぼがねとびはじめると秋がくる	第二峡田小学校3年・上田羽南さん
		夏の海波の音がおどるよう	第三瑞光小学校4年・波さん
		ひらりり光の如き金魚の尾	東本郷小学校5年・夜明け藤さん
		水すむ夜のなかにいるろうそくだ	国府台女子学院小学部3年・横山佳保さん
		せみの声ゆれてわたるよかざらばし	桜堤中学校3年・姫花さん

# 第35回 あらかわ俳壇

投句数	974句(一般の部929句/小中学生の部45句)
投句者数	178人(一般の部149人/小中学生29人)
兼題	曼珠沙華、小鳥来る、クリスマス、当季雑詠
選者	佐々木忠利氏(荒川区俳句連盟会長)
期間	令和6年10月1日から12月31日

一般の部	特選	一枚を残し刈田となる里曲	安田蝸牛さん
	選評	刈り取られた田んぼに一枚だけ残された稲があり、その田んぼを背景にした里の風景を描写しています。収穫後の静かな田園風景と、その中にある一枚の稲が強調されています。この句からは、農作業の終わりと、その後の静寂が感じられます。	
	入選	池涸れて頭になりぬ捨小舟	破れ蓮さん
		手話の手のハートの形小鳥来る	羽住玄冬さん
		灯火は聖夜のプロレタリアート	四方うみ哉さん
		一叢の血潮の埧塙曼珠沙華	リカさん
		垂れ込める暗雲重き曼珠沙華	田村直美さん
	佳作	二度寝する夢にざわめき小鳥来る	岡崎みのるさん
		亡き祖父が何か言いたげ曼珠沙華	加藤多作さん
		晴渡る御料牧場小鳥来る	亀田かつおぶしさん
		残業後美女に変身して聖夜	川越のしよびさん
		小鳥来る一步一步と義肢装具	ふるやしげるさん
		妖精のいさうな木立曼珠沙華	櫻井祥香さん
		戒名に俗名一字曼珠沙華	三田忠彦さん
		クリスマスソニーブラザの紙袋	恋瀬川三緒さん
		明日のこと夢見て枕に春着置く	林ピロコさん
		熱爛や吾に一病癖二つ	川口政治さん

小中学生の部	特選	まんじゅしゃげむれて整列授業中	一燈園小学校4年・太田慈さん
	選評	曼珠沙華が群れを成して整列している様子が描写されています。授業中の静かな時間に、曼珠沙華が整然と並んでいる情景が浮かんで来ます。自然の美しさと静けさが感じられます。	
	入選	プレゼントいつもありがとうサンタさん	第三峡田小学校4年・中島美紗さん
		ふっている赤いもみじが風の中	第二峡田小学校3年・もみじさん
		待ちわびるサンタの追跡クリスマス	第二峡田小学校6年・辻萌叶さん
		春の風かんじながらあそぶ日だ	春やすみさん
		冬晴れや空を見上げるかげ動き	お茶の水女子大学附属中学校3年・山ちゃんさん
	佳作	サンタさんちゃんとくるよねクリスマス	第九峡田小学校1年・徳富遥樹さん
		かがやきのいちょうのはのじゅうたん	国府台女子学院小学部3年・横山佳保さん
		クリスマスみんなうれしいプレゼント	尾久小学校4年・さっちゃんさん
		クリスマスサンタが親と知った冬	第三峡田小学校4年・あさひさん
		一人ずつ別れと出会い新学期	足立区島根小学校5年・川田涼仁さん
		クリスマスみんなもらうよプレゼント	第九峡田小学校3年・甲野琴莉さん
		東京で雪をまってる午前中	赤土小学校5年・七條沙彩さん
		ひらりらり光の如き金魚の尾	東本郷小学校5年・夜明け藤さん
		無理ですよ赤点回避不可能です	郁文館小学校2年・瑠花さん
		秋はねえうれしいけれどさみしいよ	汐入東小学校3年・森下眞羽さん

### 第36回 あらかわ俳壇

投句数	979句(一般の部895句／小中学生の部84句)
投句者数	202人(一般の部158人／小中学生の部44人)
兼題	読初、野焼、桃の花、当季雑詠
選者	対馬康子氏(現代俳句協会副会長)
期間	令和7年1月1日(水曜)から3月31日(月曜)

一般の部	特選	読初や翼ひろげる文庫本	横浜市・山田知明さん
	選評	新年に初めて本を読む。手に取った小さな文庫本に知や物語との出会いがあり、新しい年の自由な翼が広がります。「翼ひろげる」に象徴性があり詩的。余韻ある表現に読み初めの高揚感が響きます。	
	入選	野焼跡風の残り火焼けなかった言葉	荒川区・石井重昭さん
		読初のロボット生真面目に若し	千葉県・兎森へるさん
		星の肺浸食中の野焼かな	須崎市・野中泰風さん
		心臓に四つの扉読始む	茅ヶ崎市・宮永武彦さん
		読初やベーカ―街の日の暮れて	足立区・董久さん
	佳作	足音の聞こえて来る日春立ちぬ	東尾久・大矢幹夫さん
		数式は難解桃の花眺む	佐倉市・木村弘美さん
		旅をする如くに読書始めかな	足立区・木幡忠文さん
		階段の手すり冷し桃の花	荒川区・櫻井祥香さん
		王さまの切手にこやか初便り	荒川区・竹野美恵子さん
		峰に湧き岬に発つる鳥曇	瀬戸市・春美さん
		閉校の百葉箱に残る雪	桜川市・中原恵朋さん
		弥生人の名を募ります桃の花	松戸市・弥栄武庫さん
		子規の忌や羽二重団子にもココア	葛飾区・目黒琴音さん
		北を指し引鴨の陣揺るがざる	木更津市・安田蝸牛さん

小中学生の部	特選	さくらの木ゆらゆらゆれる花しぶき	第四峡田小学校3年・中村美月さん
	選評	「花しぶき」と表現したのが魅力的。桜の花びらが舞う瞬間を水がはじけ飛び散るように感じたのは繊細です。音やリズムも柔らかく、春のおだやかな風情の中で明るい気持ち伝わります。	
	入選	銀将の柙目列なす桃花かな	明治大学付属中野中学校3年・白鷹屋笹七さん
		なの花がまちいっぱい広がった	第四峡田小学校3年・岸勇陽さん
		蝶飛べばぐわんと空気歪みけり	横浜市立東本郷小学校5年・佐々木睦さん
		書初めや心は晴るる手は黒く	第四峡田小学校3年・佐藤大悟さん
		野火の跡ひょっこり顔出す穴のもの	倉敷市立万寿東小学校6年・野のはなさん
	佳作	世を厭い世を厭い吐く息白し	第九峡田小学校1年・徳富遥樹さん
		AIになやみはあるのももの花	一燈園小学校4年・太田慈さん
		美しく光のような桃の花	汐入東小学校4年・みはねさん
		見つけたぞそこにいるのはメジロかな	第九峡田小学校1年・徳富遥樹さん
		花びらが私の心のように散っていく	尾久小学校4年・水越彩乃さん
		いそがしい春マフラーの忘れ物	第六日暮里小学校6年・山田芽生さん
		青の空知らない世界へちるさくら	第四峡田小学校3年・吉田茉由さん
		ふってくるあられみたいなはつ雪が	第二峡田小学校3年・上田羽南さん
		花びらが春一番にふかれたよ	汐入東小学校3年・森下眞羽さん
		見つけたらハッピーになれるクローバー	国府台女子学院小学部3年・横山佳保さん